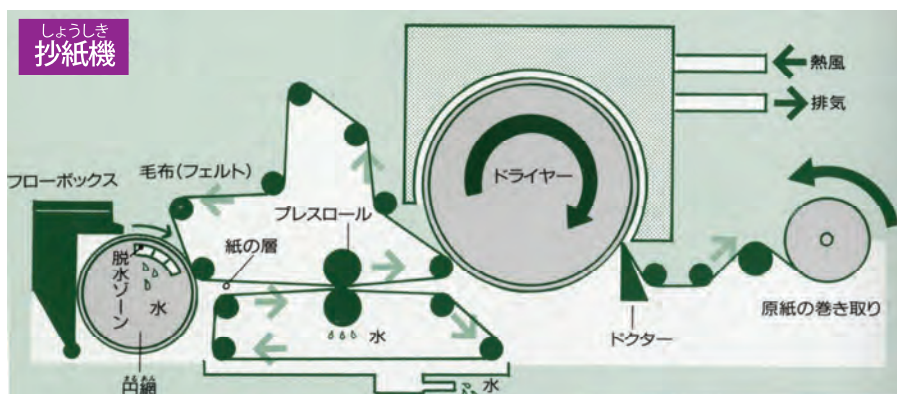
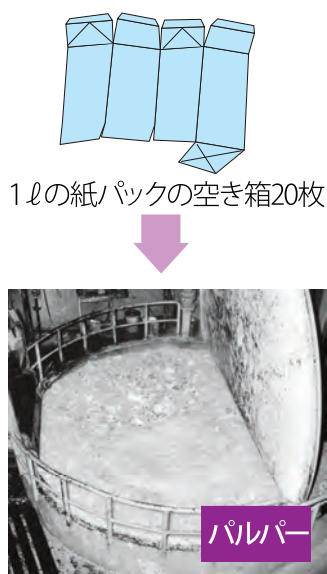


工場とつちゃーく

子ども 「わー!大量の紙パックが機械の中で、まわってるよー。」
 エコロ 「やっ、これがパックについているフィルムをはがす、パルペーという機械だな。」
 子ども 「巨大なミキサーみたいだ。」
 エコロ 「こっちは、紙をすく機械だ。ほぐして、どろどろになった紙をまた、からませる。再生紙のトイレトペーパー、一丁あがりというところだな。なるほど、紙すきと、同じ理屈だ。」
 子ども 「ぼくの飲んだジュースの紙パックが、このトイレトペーパーのごく一部になるなんて、おどろきだよな。」



上の抄紙機(しょうしき)という機械で紙をすくよ

約5個のトイレトペーパーができる



パルペーの写真、抄紙機のイラスト『牛乳パックのリサイクル教室』より

子ども 「リサイクルってすごいなあ。
 これでも、もう、ごみ問題はだいじょうぶだね、エコロ。」

エコロ 「とんでもない。
 リサイクルは、あくまで最後の手段なんだ。本当は
ごみを出さないのが、一番。

たとえば、外でお茶やジュースを買うのではなく、水筒に入れて持っていくこと。」

子ども 「それなら、できるよ!」

エコロ 「次は、再利用できないか、考えること。その二つがあつてのリサイクルなんだ。
 それに、いろいろな材料が混じると、リサイクルはうまくいかない。
 だから、また材料や製品になるものだったら、
 ちゃんと、分けられたところに出さないとね。」